

## 土壌モノリスで文部科学大臣表彰を受賞

農業環境インベントリーセンターの中井信、浜崎忠雄（現鹿児島大学）、大倉利明、太田健（現農研機構）、小原洋の5名が、「土壌モノリスを活用した土の理解増進」で平成20年度文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。

受賞者らは、地中であってふだんは目にすることのない深さ1m以上の土壌断面を樹脂で固定した「土壌モノリス」（土壌断面標本）の作製法を開発しました。その後、30年にわたって研究所や博物館の専門家に作製法を指導し、土壌モノリスの普及を図ることによって、作物生産や環境保全と土壌の形態や機能の関係について、幅広い人々の理解増進に貢献しました。

その中で、農業環境技術研究所に土壌モノリス館を開設して累計3万人以上の来訪者を迎えるとともに、土壌モノリスについてのWebサイトを開設して、土壌モノリスの情報を広く発信しています。また、土壌モノリスを「サイエンスキャンプ」などの青少年向けのプログラムやイベントに活用するとともに、博物館や大学の特別展示への貸し出し、放送

局や出版社の撮影による情報提供なども数多くおこなってきました。さらに、アジアや南米の農業試験場や大学などの専門家に作製法を指導し、各国で自国の土壌モノリスを作製・展示するなど国際貢献にも寄与しています。



受賞者：左から大倉、浜崎、太田、中井、小原

（研究コーディネータ 谷山 一郎）

## 若林農林水産大臣が農業環境技術研究所を視察

さる7月7日、若林農林水産大臣が農業環境技術研究所を訪問されました。農林水産大臣が農業環境技術研究所を訪問されるのは、独法化後、初めてのことです。今回の訪問は筑波農林研究団地ご視察の一環であり、当日は農業環境技術研究所のほかに、森林総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、農業生物資源研究所などを視察されました。

来賓室にて佐藤理事長より研究所の概要をご説明した後、研究所の構内にある2か所の屋外研究施設にご案内しました。洞爺湖サミットの開催中でもあり、農業環境技術研究所が中心となって進めている地球温暖化対策研究についてご紹介しました。

農業環境技術研究所では、大気中の二酸化炭素濃度の上昇がコメ生産に及ぼす影響を調べています。今回、温室内で実際に将来の大気中の二酸化炭素濃

度条件下で水稲を栽培している施設（クライマトロン施設）をご視察いただき、これらの研究によりコメ生産力の長期的な予測や新たな生産技術開発などに役立つ成果が得られつつあることをご説明しました。

また、農業環境技術研究所では、農業活動が地球温暖化に与える影響についても研究しています。水田や畑から発生し、地球温暖化の原因の一つとなっているメタン、亜酸化窒素ガスを長年測定している施設（温室効果ガス発生制御施設）もご覧いただき、ここで得られた研究成果がIPCC（気候変動に関する政府間パネル）で利用されるなど国際的にも高く評価されていることをご説明しました。若林大臣は前環境大臣であったこともあり、たいへん熱心にお聞きになられました。

（研究統括主幹 長谷部 亮）